学校番号	３１８

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	詳述倫理（実教出版）						
副教材等	新倫理ノート（啓隆社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「思想・哲学は難しい」と思われがちですが、日常考えないことを考えてみることも大事です。先人の思想や生き方を学ぶことによって、より広い視野を持てると思います。自ら考え、自分の言葉で表現することを学びましょう。

２　学習の到達目標

① 古今東西の幅広い知的蓄積を通して現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から人間としてのあり方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。
② 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
③ 人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚を深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を自己確立の課題と理解し、人格の形成に生かす知識として身につける。	自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて先人の思想、生き方を学び考えている。広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲をもつ。これらにかかわる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期前半	自己形成と自己の生き方〉人間としてのあり方生き方	第１章　自己形成と自己の生き方 第１節　青年期の課題と自己形成 １．青年期とは何か ２．自己形成の課題 ３．よりよい生き方を求めて 第２節　人間とは何か 第２章 人間としてのあり方生き方 第１節　ギリシア思想 １．ギリシア思想の誕生―自然哲学 ２．ソフィストたちとソクラテス ３．プラトン ４．アリストテレス ５．ギリシア思想の展開 第２節　キリスト教 １．古代ユダヤ教 ２．イエス ３．キリスト教の誕生と展開	a: 個性・感情・認知・発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心のあり方について理解している。／幸福・愛・徳などに着目して人間としてのあり方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解している。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解している。 b: 自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者・集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結びつけて多面的・多角的に考察し，表現している。／神話的世界観と合理的世界観の違いや変化の背景を考察している。 c: 青年期の特徴や意義の理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。／キリスト教の成立やその広がりの理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。	小テスト 授業プリント 演習ノート 定期考査	授業プリント 演習ノート 定期考査	レポート 演習ノート

1学期後半	イスラーム／仏教	第３節　イスラーム 第４節　仏教 １．仏教以前のインド思想 ２．ブッダの教え ３．大乗仏教の成立とその教え 第５節　中国思想 １．「道」の自覚―孔子 ２．儒家思想の展開 ３．老荘思想 第６節　宗教・芸術と人生	a:真理・存在などに着目して、世界と人間のあり方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解している。／古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から人間としてのあり方生き方に関わる情報を読み取る技能を身につけている。 b: イスラームの教えが広く受け入れられているのはなぜか、イスラームの教えをふまえて考察し表現している。／ブッダの教えや理想とされる生き方をふまえて、自己のあり方生き方について考察し表現している。 c:イスラームの理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。／ブッダの教えの理解を通して人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。	小テスト 授業プリント 演習ノート 定期考査	授業プリント 演習ノート 定期考査	レポート 演習ノート

2学期前半	社会・世界と人間としてのあり方生き方	第３章　社会･世界と人間としてのあり方生き方 第１節　人間の尊厳 １．ルネサンス ２．宗教改革 ３．モラリスト 第２節　科学･技術と人間 １．近代の自然観 ２．新しい学問の方法―経験論と合理論 第３節　民主社会と自由の実現 １．民主社会の形成―社会契約説 ２．人格の尊厳―カント ３．人倫―ヘーゲル 第４節　社会と個人 １．個人と社会との調和―功利主義 ２．社会の進歩と変革 ３．真理と行為―プラグマティズム 第５節　近代的人間の見直し １．主体性の再定義―実存主義	a: 善･正義･義務などに着目して、社会の在り方と人間としてのあり方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解している。 b: ルネサンス期の芸術や思想をふまえて、人間らしい生き方について考察し表現している。／帰納法と演繹法について、その学問的意義を考察し、知の源泉とは何であるかについて表現している。／思想家の考え方をふまえて、人間の尊厳とはどのようなものか考察し表現している。／道徳的な行為や義務について、帰結主義と義務論の違いをふまえて、両者が対立する場面を具体的にあげて考察している。 c: ルネサンス･経験論と合理論･カントやヘーゲルの思想の理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。	小テスト 授業プリント 演習ノート 定期考査	授業プリント 演習ノート 定期考査	レポート 演習ノート

2学期後半	社会・世界と人間としてのあり方生き方〉国際社会に生きる日本人としての自覚	2．近代的な「私」の問い直し―無意識の発見 3．思考は言語にしばられる―言語論的転回 4．社会関係のなかでの「私」の成立―構造主義 第6節　現代の暴力に抗して 1．生命への畏敬と非暴力の思想 2．暴力のあとで―理性，人間，他者の見直し 3．暴力のなかで―公共性，正義，共通善の実現 第4章　国際社会に生きる日本人としての自覚 第1節　古代日本人の思想 1．日本人の自然観と気質 2．神との関わりと道徳観 第2節　日本の仏教思想 1．仏教の受容 2．仏教の日本的展開―鎌倉仏教 3．仏教と日本文化	a:古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に国際社会に生きる日本人としてのあり方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観・自然観・宗教観などの特質について自己との関わりにおいて理解している。 b:　思考が言語の枠組みのなかで行われていることについて、考察し表現している。／人間の暴力的な行為に対してどう向き合うべきであるかについて、考察し表現している。／当時の日本人と私たちの四季の感じ方と共通する点や異なっている点を、考察し表現している。 c:　日本人の自然観や気質・道徳観の理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。／仏教の受容やそれが浸透した流れへの理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。	小テスト 授業プリント 演習ノート 定期考査	授業プリント 演習ノート 定期考査	レポート 演習ノート

3学期	国際社会に生きる日本人としての自覚/自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理/社会と文化にかかわる諸課題と倫理	第３節　近世日本の思想 １.儒教の受容と朱子学 ２．日本陽明学 ３.日本的儒学の形成―古学 ４．国学の形成 ５．民衆の思想 ６．幕末の思想 第４節　西洋思想の受容と展開 １.啓蒙思想と自由民権思想 ２.キリスト教の受容 ３.国家主義の台頭と社会主義思想 ４.近代的自我の確立 ５.近代日本哲学の成立と超国家主義 ６.伝統の自覚と新たな課題 第５章　自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第１節　生命の倫理 第２節　環境の倫理 第３節　科学技術の倫理 第６章　社会と文化にかかわる諸課題と倫理 第１節　福祉の課題 第２節　文化と宗教の課題 第３節　平和の課題	a:　古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としてのあり方生き方に関わる情報を読み取る技能を身につけている。／生命・自然・科学技術などと人間との関わりについての倫理的課題を理解している。 b:　古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としてのあり方生き方について多面的・多角的に考察し表現している。／生命・自然や科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し自分の考えを説明・論述している。 c:　儒教の受容と朱子学・日本陰陽学・古学・国学の理解を通して、人間としてのあり方生き方に関わる事象や課題について追究したり他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。／生命倫理・環境倫理・化学技術をめぐる課題の理解を通して、人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について追究したり他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。	小テスト 授業プリント 演習ノート 定期考査	授業プリント 演習ノート 定期考査	レポート 演習ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度